

## 田植えとイトトンボ

私が小さかった頃の田植えは6月中旬で、我が家では6月20日、10人くらいの近所のおばさんたちが一列に並んで後ずさりしながら植えていた。私が子供の時なので、おばさんと思ったのは農家に嫁さんに来たばかりの若いお姉さんたちだったかもしれない。一軒の家の田植えは1日で終わらせるのが常なので、その作業に必要な人数が朝早くから手伝いにやってくる。(母親は手伝いのおやつにウズラマメなどを甘く煮ていた)

農家の嫁さんたちは、手伝いに来てくれる人の家の田植えに出かけて行って自身の労働を提供して必要な人数を集めるのである。私の母親は9日間田植えを手伝いに行き1日は家の田植えをしたことになる。これを「いいでま」と言って古くからの助け合いであるが、一歩ひいて考えると家の田植えは嫁さんが一人で全部をしたことになるのである。これが農家の嫁不足の一因でもあった。

ところで、その頃は、田んぼの周りで遊んでいるときれいな水色のイトトンボがフワと舞い上がったり水面から出ている草に止まったり、種類は分からないけれど何匹もいた。

機械化が進んだ今、田植えが5月の連休まで早まりおかげで嫁さんたちの田植え姿もなくなっただけで、田植えの終わった田んぼにイトトンボは見えなくなった。子供の頃の田園風景を思い出しながら何か寂しい気持ちがある。

昨年1匹のホソミイトトンボと今年も1匹を見ただけである。去年も見て今年もいたのだから絶えたわけではないが、水田に水が戻る時期が昔と変わってきて生態系にかなり影響を与えているのは確実である。そのうちに昔のような復活が期待できるだろうか？

カエルたちも被害に合っている。昔は田植えが6月だったからオタマジャクシが成長するのに丁度良かったのだろうが、最近ではどこの田んぼも水を早く干してしまう。私はオタマジャクシが陸にあがるまで、できるだけ長く水を張ってやることにしている。



ホソミイトトンボ（細々と稲刈りの頃もいる）と陸にあがったばかりのオタマジャクシ